

2024年度 町田市立藤の台小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月31日

学校教育目標 思いやりのある子供(思いやりの心をもち、自他を大切にすること)人間関係形成力) やりぬく子(何事もあきらめず、最後までやり遂げようとする子供「実践力」) 考える子(自ら学び、考えながら、課題を解決していく子供「問題解決力」) ○目指す学校像・・・「人との関わり」で子供が育つ学校 ①温かい信頼感のある学級 ②共に学び、高め合う教職員 ③保護者や地域と協働する学校 ○目指す児童像・・・①思いやりの心をもち、自他を大切にすること ②自ら学び、考えながら、課題を解決していく子供 ③何事もあきらめず、最後までやり遂げようとする子供 ○目指す教師像・・・①授業力向上を図るため、互いに高め合う教師(O、T)②意欲的に学校外で学ぶ教師(Off-T)③自分自身のスキルアップを図る教師(自己啓蒙)	学校経営の重点 「授業をデザインする8つの取組」を活用した、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善 重点目標の成果と課題 【成果】「主体的・対話的で深い学びの実現～生活・総合的な学習の時間を通して～」を研究テーマに設定し、「授業をデザインする8つの取組」と「手立て」を関連させ研究に取り組んだ。研究授業・全学級公開授業を通して手立ての検証した結果、教員の意識改革が図られ授業改善へとつながった。また他教科・領域への波及した。【課題】さらなる「主体的・対話的で深い学び」への授業改善
---	--

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	家庭・地域との連携を強化する。	地域人材を積極的に活用した教育活動を行う。 保護者や地域と協働した、生活科・総合的な学習の時間を充実する。	4.年間指導計画の90%以上の指導場面で実施	2.8	C	A.学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上	80	A	「取組指標では「家庭・地域との連携を強化する。」の項目の評価が共に1ランク下がった。 「成果指標では「地域人材を積極的に活用した教育活動を行う。」の項目の評価が1ランク上がった。	「引き続き地域連携授業を整理、関係し、学校・家庭・地域の課題を解決するよう教育活動を充実する。」	保護者・地域と協働した生活科、総合的な学習(探究)や専らの特長と考える。そしてそれは、学校とVさまの良好な協力体制がなくては実現できていない。地域の方向性も連携した授業を多く実施してくれた。地域の方も大変満足していた。	A
				2.年間指導計画の70%以上の指導場面で実施			B.学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上						
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確かな習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。	朝モジュールで音読、漢字学習に取り組み、各教科でも短時間の繰り返し学習のよき生きた授業を展開する。 個に応じた指導を行うとともに、一人一台のタブレットやドリル、プリントを活用し、宿題や家庭学習の習慣化を図る。	4.90%以上のクラスで実施して公開	3.4	B	A.学校評価アンケート②「基礎基本習得」肯定的評価 80%以上	91	A	「取組指標では「朝モジュールで音読、漢字学習に取り組み、各教科でも短時間の繰り返し学習のよき生きた授業を展開する。」学習形態の工夫、思考ツールやICTを積極的に活用し、価値ある対話のある授業を展開する。」の項目の評価が1ランク下がった。	「引き続きドリルソフトを活用した家庭学習の習慣化を目標とした取り組みをする必要がある。 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」の校内研究を継続し、より実践的な研究となるよう工夫する。」	「ICTを積極的に活用しつつ発展や対話なども多量な学習形態の工夫により大変豊かな教育がされている。学年学習形態の工夫、思考ツールやICTを積極的に活用し、価値ある対話のある授業を展開する。」の項目の評価が1ランク下がった。	A
				2.70%以上のクラスで実施して公開			B.学校評価アンケート②「基礎基本習得」肯定的評価 70%以上						
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること、意欲・態度を育てる。	他者を理解し、自分と共に他者を大切にすること、意欲・態度を育てる。	生活科・総合的な学習の時間を中心に、児童の思いや願いを大切にし、単元計画、授業展開を工夫し、主体的に学びに向かうようにする。 学習形態の工夫、思考ツールやICTを積極的に活用し、価値ある対話のある授業を展開する。	4.90%以上のクラスで実施して公開	3.3	B	A.学校評価アンケート③「学習意欲」肯定的評価 80%以上	88	A	「取組指標では「朝モジュールで音読、漢字学習に取り組み、各教科でも短時間の繰り返し学習のよき生きた授業を展開する。」学習形態の工夫、思考ツールやICTを積極的に活用し、価値ある対話のある授業を展開する。」の項目の評価が1ランク下がった。	「引き続きドリルソフトを活用した家庭学習の習慣化を目標とした取り組みをする必要がある。 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」の校内研究を継続し、より実践的な研究となるよう工夫する。」	「ICTを積極的に活用しつつ発展や対話なども多量な学習形態の工夫により大変豊かな教育がされている。学年学習形態の工夫、思考ツールやICTを積極的に活用し、価値ある対話のある授業を展開する。」の項目の評価が1ランク下がった。	A
				2.70%以上のクラスで実施して公開			B.学校評価アンケート③「学習意欲」肯定的評価 70%以上						
健康やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図る。	毎月避難訓練を確実に実施し、災害時の基本行動や不審者対応等の行動がえられるように指導する。 日常的に安全点検を行い、校内整備や美化に取り組み、安全できれいな環境を整備する。	4.90%以上の指導場面で実施	3.2	B	A.学校評価アンケート④「運動」肯定的評価 80%以上	76	B	「取組指標では「給食指導を通して、食に関する知識や望ましい食習慣、生活習慣を身に付ける。」の項目の評価が1ランク下がった。	「運動の日常化を図るため1日1回外遊びなど遊びを通じた多様な運動機会を形成する。」	「安全指導目の下校指導など、交通安全指導を家庭・地域と連携して取り組む。」	A
				2.70%以上の指導場面で実施			B.学校評価アンケート④「運動」肯定的評価 70%以上						
その他				4.90%以上の指導場面で実施	3.7	A	A.学校評価アンケート⑤「安全意識」肯定的評価 80%以上	91	A	「取組指標では「安全意識」肯定的評価 80%以上 B.学校評価アンケート⑤「安全意識」肯定的評価 70%以上 C.学校評価アンケート⑤「安全意識」肯定的評価 55%以上 D.学校評価アンケート⑤「安全意識」肯定的評価 55%未満	「安全指導目の下校指導など、交通安全指導を家庭・地域と連携して取り組む。」	「運動に関しては学年や学校全体で取り組んでいく中で熱心に取り組んでいる姿が見られた。」	A
				2.70%以上の指導場面で実施			B.学校評価アンケート⑤「安全意識」肯定的評価 70%以上						

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ) 取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3.5未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標評価基準 成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	学校関係者評価の評価基準例 A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。
--	--	---

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記していただく。